



◇ 研究授業 ～ 授業改善の実践として ～

- ・教科：保健体育 科目：保健…1単元(応急手当の基本と心肺蘇生法)
- ・日時：令和元年6月17日(月)～6月21日(金)
- ・対象学年：1年生(全クラス) ・場 所：体育館

◇ 保健の目標・ねらい

保健の見方・考え方を働かせ、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成するため

- (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。
- (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

◇ 授業の概要

「応急手当の意義とその基本」「心肺蘇生法」の単元において、今年度初めて保健の授業で関消防署から職員の方に来ていただき、講義と実技研修という形で2時間の体験型学習をおこなった。今回、6月に行った理由として、夏休みを控えて、課外活動や水難事故、熱中症など事故や怪我が多くなる時期に実践できる態度と技能を身に付けるねらいがある。

■進め方

- ① グループ分け (5～6名)、事前説明及び授業のねらい …1時間
- ② 体験型学習・講義と実技講習会、質疑応答 …2時間
- ③ 保健の教科書・パンフレットを使った授業講義 …3時間
- ④ 評価・感想・まとめ …1時間



◇ 授業の実践

日本における心肺停止者の生存率は約11%と先進国の中では低い数値である。その原因の1つとして、その場にいあわせた人によって心肺蘇生法がおこなわれている例が少ないことが指摘されている。その理由として、「何をしたらよいかわからない」「かえって悪化させることが心配」「自信がない」が大半である。

心肺蘇生法などの応急手当の意義や正しい方法・手順について理解するとともに、実習をとおして日常生活において実践できる態度と技能を身に付ける。



◇ 生徒の感想

- ・人が倒れていたら、周囲の安全を確認したり、呼びかけたり、勇気がいることばかりだけど、自分がその勇気を持てば一人の命が救われるかもしれないと思うと、私も万が一、事故などに遭遇したら勇気を出したいと思った。
- ・AEDが必要な状況に立ち会ったことがないので、いざやるとなると何をしたらよいか分からなくなってしまうけど、今回の実技講習で躊躇なく素早く動くことが大切だと学んだ。他人だとしてもその人を必ず救うという気持ちで心肺蘇生法ができるようになりたい。胸骨圧迫に体重をかけ、100～120回を1分間のうちに行うことがすごく大変だった。
- ・もし自分が実際にそういう状況になったときに、適切な対応・行動ができるように学んでおくことは大切だと思った。実技講習で体験してみて「強く・早く・絶え間なく」やることの難しさを感じたが、学んだことを日常に生かしていきたい。

◇ まとめ

今回、初めての試みで体験型学習の形態で、2時間続きの実技講習をおこなった。中学校で同じように実技体験をしてきている生徒も半分近くいたが、何年かたっているなか手順ややり方など記憶があいまいになっていることが多く、保健の授業で行えたことの意義は大きいと思う。特に、人の命に関わることで1分1秒をあらそうなか、勇気をもって自ら進んで実行できる態度を養っておくことは、自他の生命や身体を守り、安全で安心な社会をつくることに役立ちます。グループ内での実技となった心肺蘇生法では、仲間と協力しお互い指摘しあいながら実践している姿が見られた。生徒の感想のなかには、心肺蘇生法をおこなう強さや、テンポなど難しかったが勇気を持って実践していきたいと前向きな感想が多く見みられた。また、最新の救急医療では、119番通報から、そのまま消防職員と現場での電話でのやりとりのなか指示を受け、応急手当をおこなう方法も紹介され代表生徒による実践もおこなった。